



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010 推進ニュース

－介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！－

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

**市民に「安心できる介護保険に改善する署名です」と元気にアピール！
若者が署名に列をなして街頭宣伝（4月3日）40人で350筆以上（北海道）**



勤医協在宅と「介護に笑顔を」道連絡会が共同で呼びかけた街頭宣伝行動が4月3日午後、札幌三越前で行われました。勤医協在宅・かりふ・北海道勤医協・福祉保育労・勤医労などから参加した40人が交差点四つ角にわかれ、市民に「安心できる介護保険に改善する署名です」と元気にアピールしました。

マイクでは「高い保険料を徴収され、利用料も払っているのに、使いたいサービスが使えないのはおかしい」（ヘルパー）「人手が足らず、利用者の思いに応えられない歯がゆさ」（通所介護で働くケアワーカー）など、現場でがんばる職員が実情を訴えました。買い物途中の若者が列をなして、「うちのおばあちゃんも世話になっているから」と次々と署名に応じてくれ、1時間の行動で、350人以上の署名が寄せられました。「連絡会」では、この間取り組んだ署名を4月14日国会へ提出します。全道から代表を送りましょう。



制度施行10年「介護110番」に26件の相談「開始から1時間で71件の電話」



4月1日に「介護に笑顔を」道連絡会が行った「介護110番」は、開始時間の午前10時に、いっせいに3本の回線が埋まり、開始から1時間で71本（！）もの電話が寄せられました。12人の相談員が交代で相談にあたり、遠く今金、中標津、本別、北見などからの電話を含め、午後6時までに26人の相談を受けました。今回の「110番」は、認知症のご家族から「ショートステイやデイサービスに行きたがらない」「洗濯物に火をつけてしまって、火事になった」「抱え込むなどと言われるが、誰も相談に乗ってくれない」等の相談が半数を超えたのが特徴です。

「一人暮らし」をしている方からも、「家に風呂がなく、温泉まで歩いて40分かかる。タクシー利用券がないだろうか」（函館在住の81才の女性）、「膝が痛く、買い物や掃除が大変になった。緊急に何かあつたときにはどうしたらいいのだろう」（札幌市80才の女性）、「人工肛門をつけているが、昨年末に事故で指を切断して、自分で交換ができなくなった。認定は受けている（要支援1）のだが、サービスを利用するには、どうしたらいいのか」（帯広市在住の87才男性）等の相談がありました。

「より深刻化する相談内容」では、一人に1時間半もかかるなど、深刻な内容の相談がたくさん寄せられました。また「65才になってみて、介護保険料がこんなに高いとは思わなかった」（雨竜町）、「訪問介護を頼んでいるが、ヘルパーさんがすぐに帰ってしまうので、使いづらい」、「同居家族がいるとヘルパーを頼めないと聞いたが、本当か」、「介護タクシーは、どうやって頼めばいいのか」など、多岐にわたる相談がありました。（北海道民医連ニュース2010.4.2／2010.4.5より）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp